

## ●大切な作物を害虫から守ります

# カルホス<sup>®</sup>乳剤

(イソキサチオン乳剤)

有効成分：イソキサチオン(PRTR 法第 1 種-250 号)…50.0% <sup>®</sup>は登録商標

### 殺虫剤

農林水産省登録第 12455 号  
 性状：黄赤色澄明可乳化油状液体  
 毒性：劇物  
 危険物：4-2 石-III  
 有効年限：5 年  
 包装：100ml×60  
 500ml×20

### ■ 特長 ■

- 接触毒と食毒の両作用により、幅広い害虫に有効です。
- 作物への吸収移行がないので、残留・残臭が少ない殺虫剤です。
- 悪臭や刺激性が少なく、使いやすいです。

### ■ 適用病害虫名と使用方法 ■

令和 3 年 7 月 7 日現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イソキサチオンを含む農薬 の総使用回数	
とうもろこし (子実)	アワノメイガ	1000 倍	100～ 300ℓ/10a	収穫 30 日前 まで	2 回 以内	散布	2 回以内	
みかん	ゴマダラカミキリ成虫	1500 倍	200～ 700ℓ/10a		4 回 以内		4 回 以内	4 回以内
	カイガラムシ類 ミカンハモグリガ コカクモンハマキ クワゴマダラヒトリ若齢幼 虫 ミカンサビダニ	1000～ 1500 倍						
	コナカイガラムシ類 ミノガ類、ケシキスイ類	1000 倍						
	カネタタキ	5000 倍						
いちご (仮植床)	コガネムシ類幼虫	1000～ 1500 倍	3ℓ/m <sup>2</sup>	植付後	1 回	灌注	1 回	
キャベツ	アオムシ コナガ	1500～ 2000 倍	100～ 300ℓ/10a	収穫 21 日前 まで	1 回	散布		
たまねぎ	タマネギバエ	500～ 1000 倍	育苗箱 (約 30× 60× 2.5cm、 使用土壌 約 2ℓ) 1 箱当り 500ml	定植前	1 回	土壌 灌注		

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イソキサチオ ンを含む農薬 の総使用回数
さとうきび	アオドウガネ幼虫 ハリガネムシ類	1000 倍	1.8ℓ/m <sup>2</sup>	夏季生 育期 まで	3回 以内	土壌 灌注	5回以内 (種苗浸漬は 1回以内、植 付時の土壌混 和は1回以内、 植付後は3回 以内)
	ハリガネムシ類		—	植付前			
茶	コカクモンハマキ チャノホソガ ヨモギエダシャク チャノホコリダニ	1500 倍	200～ 400ℓ/10a	摘採 21日前 まで	1回		1回
	クワシロカイガラムシ		1000ℓ /10a				
たばこ	ジャガイモガ	1000 倍	100～ 180ℓ/10a	収穫 10日前 まで	2回 以内		2回以内
	タバコガ ヤサイゾウムシ	1000～ 1500 倍					
	ヨトウムシ	1500～ 2000 倍					
樹木類 (まさき、 もっこく、 さくらを除く)	カイガラムシ類 ケムシ類	1000 倍	200～ 700ℓ/10a	発生 初期	6回 以内	散布	6回以内
まさき	カイガラムシ類 ケムシ類 ユウマダラエダシャク						
もっこく	カイガラムシ類 ケムシ類 モッコクハマキ						
さくら	カイガラムシ類 ケムシ類			クビアカツヤカミキリ			

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	イソキサチオンを含む農薬 の総使用回数
花き類・ 観葉植物 (きく、 ガーベラ、 シクラメン、 アジアンタム を除く)	オンシツコナジラミ 若齢幼虫	1000 倍	100～ 300ℓ/10a	発生 初期	4回 以内	散布	4回以内
きく ガーベラ	マメハモグリバエ オンシツコナジラミ 若齢幼虫						
芝	チガヤシロオカイガラムシ	1000 倍	0.5ℓ/m <sup>2</sup>	発生 初期	6回 以内	散布	6回以内
	スジキリヨトウ シバツトガ		0.5～2ℓ/ m <sup>2</sup>				
	シバオサゾウムシ ケラ、コガネムシ類 タマナヤガ幼虫		1～ 2ℓ/m <sup>2</sup>				

### ■ 効果・薬害等の注意 ■

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液とは混用しない。
- 芝に使用する場合、土壌面まで濡れるように十分散布する。
- オンシツコナジラミに対しては若齢幼虫には有効であるが、卵、蛹には効果が低いので、若齢幼虫の多い時期をねらって約1週間間隔でくり返し散布する。
- いちごのコガネムシ類幼虫には仮植床に植付後、床面全面にジョロ等で所定量を均一に灌注する。
- とうもろこしのアワノメイガには雄穂の出穂前後に2回散布する。
- たまねぎ(育苗箱)に使用する場合、軟弱苗などには薬害を生じるおそれがあるので留意する。
- さとうきびのハリガネムシ類防除に種苗浸漬処理で使用の場合、浸漬後風乾してから植え付ける。
- さとうきびのアオドウガネ幼虫防除の場合、なるべく若齢幼虫の多い時期に灌注する。
- シクラメン、アジアンタムにはかからないようにする。
- せんりょうの生育期(3月～10月)では薬害をおこすので散布しない。
- クビアカツヤカミキリの防除に使用する場合、成虫に直接かかるように散布する。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に対しては、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

**安全使用上の注意**

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
  - ① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
  - ② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用を避ける。
  - ③ 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行なわれているかを確認し、養蜂が行なわれている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努める。
- 医薬外用劇物。取扱いには十分注意。誤って飲み込んだ場合は吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせる。
- 使用中に異常を感じた時は直ちに医師の手当を受ける。
- 眼に入らないように注意。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 皮ふに付着しないように注意。皮ふに付いた場合は直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 薬液調整時及び使用の際は、保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用する。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして、洗眼する。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- ハウスで使用する場合は、換気に十分注意し、薬液がハウス内にこもらないようにする。使用後は十分に換気し入室する。
- 塗装汚染・変色のおそれがあるので自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石にかからないようにする。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消火剤等で消火に努める。
- 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

**解毒剤**…硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤。

**魚毒性等**…一時に広範囲に使用する場合は十分注意。

**保管**…密栓し、火気をさけ、食品と区別して、直射日光の当たらない冷涼な所。カギをかける。盗難・紛失の際は、警察に届け出る。

- 飲みません。
- 有効年月内に使用する。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしない。